



平成 29 年 11 月 13 日

各 位

会社名 東 洋 炭 素 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 小西 隆志
(コード番号：5310 東証第一部)
問合せ先 取締役執行役員管理本部長 堤 宏記
(TEL. 06-6472-5811)

連結業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 8 月 9 日に公表した連結業績予想および平成 29 年 2 月 14 日に公表した配当予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

平成 29 年 12 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|-------------------------------|--------|-------|-------|-------------------------|-----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想 (A) | 32,500 | 1,900 | 1,700 | 1,600 | 77.12 |
| 今回修正予想 (B) | 34,500 | 3,300 | 3,300 | 2,500 | 120.49 |
| 増 減 額 (B-A) | 2,000 | 1,400 | 1,600 | 900 | — |
| 増 減 率 (%) | 6.2 | 73.7 | 94.1 | 56.3 | — |
| (ご参考) 前期実績 (平成 28 年 12 月期) | 32,464 | 652 | 759 | 284 | 13.71 |

(修正の理由)

当第 3 四半期においては、太陽電池用や半導体用等のエレクトロニクス分野を中心に好調に推移したことや、為替レートが円安に推移したことにより、売上高は想定を上回りました。また、利益面においても、売上高の増加に加え、採算性の改善により限界利益が増加したこと等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに想定を大きく上回りました。これらの状況や足元の為替動向などを踏まえ、平成 29 年 8 月 9 日に公表いたしました連結業績予想を修正するとともに為替レートの想定を変更いたします。(第 4 四半期の想定為替レート：110 円/US\$、125 円/EUR、16.5 円/人民元)

なお、中国高温ガス炉 (HTR-PM) 向け黒鉛材につきましては、現時点で納品は完了しているものの、顧客の検収に時間を要することも勘案し、来期の売上計上 (約 30 億円) を見込んでおります。

3. 配当予想の修正について

| | 年間配当金 | | | | |
|-------------------------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 前 回 予 想 (平成 29 年 2 月 14 日) | | | | 25.00 | 25.00 |
| 今 回 修 正 予 想 | | | | 30.00 | 30.00 |
| 当 期 実 績 | — | 0.00 | — | | |
| 前 期 実 績 (平成 28 年 12 月 期) | — | 0.00 | — | 25.00 | 25.00 |

(修正の理由)

当社は、長期的な競争力の強化と企業価値の向上を目的として、戦略的に投資を行うとともに、各事業年度の経営成績、将来の事業展開や経営基盤の強化に向けた資金需要等を総合的に勘案し、安定した利益還元を継続して行うことを基本方針としております。この方針のもと、上記の業績予想の修正のとおり親会社株主に帰属する当期純利益が前回予想に比べて増加する見通しになったことや財務状況を総合的に勘案し、平成 29 年 12 月期の期末配当予想を期初予想から 5 円増配し、30 円に修正することといたしました。

(注) 上記の予想は、本資料発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績および配当は今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以上